

博士課程を修了する皆さんへ

久 城 育 夫



この度は、皆さん方が理学のそれぞれの分野において優れた研究業績をあげられ、博士の学位を取得されたことを心からお喜び申し上げます。今後皆さん方の多くは、どのような仕事につかれるにせよ、一人立ちした研究者として第一歩を踏み出されるわけです。もちろん今までにも殆ど独自に研究をされて来た方も多いたとは思いますが、やはり大学院生として研究室といういわば研究を行う“家庭”の中で、教官や先輩から有形無形の指導を受けて研究を進めて来られたことと推察します。指導を受けなくても、教室あるいは研究室に伝わる学問上の伝統の影響を知らず知らずのうちに受けて来たに違いありません。多くの方々はこれからはその研究室から離れて独立し、それぞれの学問分野において問題の発掘から問題解決の研究方針の決定、およびその遂行等を自分自身で行う必要があります。さらに自分自身のことだけでなく後輩を指導する機会も増えるでしょう。そのことを心細く感じる人も、あるいはせいせいするとともに喜び勇んでいる人も居られることでしょう。いづれの方々にもこれからは長く、また多くの努力を要する前途が待っています。このことは皆さん方は十分に自覚されていることと思いますが、この機会にあらためて申し上げる次第です。

以前にも述べたと思いますが、大学院を終了してからの数年間は研究を発展させるべき重要な時期です。やや大げさに言えば、この先数年間は皆さんが将来研究者として生き残れるかどうかの勝負の時である、と思って下さい。私は皆さん方が今後研究者として大きく成長し、基礎科学の進歩に重要な貢献をされることを心から願いつつ期待しています。

近年、世の中において基礎科学の振興が盛んに叫ばれています。これは、技術立国日本がその技術の基礎の多くを先進諸外国の基礎研究に負っていることに対する反省、および今後の技術の進歩に基礎的な面においても貢献しなければならないという願望の現れであると思われれます。そして政府も基礎科学の振興の為に格別の配慮を始めています。それはそれで大変結構なことであります。しかし、近年、世の中でよく言われている基礎科学は、真の基礎科学とは必ずしも同じではないように思われれます。社会を豊かにする為に直接役に立つ工業・技術は重要であり、その基礎となる科学も重要であることは当然であり、その振興は奨励されなければなりません。しかし真の基礎科学の研究はすぐに何かの役に立つものばかりとは限りません。むしろすぐに役に立たないものの方が多いでしょう。真の基礎科学の研究は研究者の自由な発想に基づくべきものです。その発想はつまるところ自然や自然現象あるいは実験事実などについての研究者の興味や好奇心、それらの本質や原因を知りたいという強い気持ちから生まれるものと思います。そのような研究は必ずしもすぐに何かに役立つとは限りませんが、その成果は人類の知的資産となるものです。また、それらの成果の多くが後に人類社会の進歩に役立つことがしば

しばあることは、過去の例をみればわかります。

私達が望むわが国における基礎科学の振興は、真の基礎科学について試されるべきであると思います。それも基礎科学の出来るだけ本質的な面での貢献が強く望まれます。皆さん方が、そのような貢献をされることを心から願う次第です。その為に、若い皆さん方が自分自身の興味や好奇心や発想を大切に、それを育て発展させることが大切です。若い柔軟な頭脳は新しい発想を生み出す能力を持っています。十分にその能力を発揮してほしいと思います。これも以前に述べたと思いますが、研究を行う以上、出来るだけ本質的な問題、あるいはより普遍的な問題について取り組んでほしいと思います。困難な研究を行う以上、失敗や行き詰まりは必ずあるものですが、失敗などにめげず、また行き詰まりにもあきらめずに粘り強く研究を続けて下さい。私の限られた経験なので一般化するのには問題かも知れませんが、近年の若い研究者は昔の研究者に比べて粘り強さにやや欠けるように思えます。

理学系研究科の大学院の重点化も本年度と来年度に実施されることになりました。新しい理学系研究科の大学院においては、施設・設備、支援職員、予算等の研究・教育環境が一段と改善され、

真の基礎科学の研究が自由にのびのびと出来るとともに、充実した教育が出来るような状態になることを切に望んでいます。現在その改革の第一歩を踏み出した段階であり、今後その目的達成に向けて更に努力をする必要があります。その改革が始まり、また理学部の建物の中央化計画も進行し始めた為もあって、理学部には現在研究・教育以外に為すべき多くの仕事があり、教官・職員の本来の研究や仕事が少なからず影響を受けています。これは大変心の痛むことですが、それも将来の発展の為の苦勞であると思い、教官・職員の方々も積極的に協力されています。この改革において、研究・教育環境が改善されることはまず必要ですが、もちろんそれだけが目的でないことは明らかです。今より一段と質量ともに優れた、世界をリードする研究を行うとともに、真に優れた人材を養成することが最も重要な目的です。理学部に残られる方々も居られると思いますが、それらの方々が今後それぞれの分野で大きな影響力のある研究を行って、新しい理学系研究科の大学院が将来、真の基礎科学研究の世界的な中心となるよう、その原動力になることを心から願う次第です（1992年3月30日の学位授与式の挨拶に手を加えたもの）。

